

「龍郷小学校の八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

龍郷町立龍郷小学校

2 学年・人数

小学1年～6年・27人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成26年9月～10月 運動会前の学習

(2) 発表の日時・場所

平成26年10月8日(水) 運動会

平成26年10月24日(金) 集落行事(種下ろし)

25日(土) 集落行事(種下ろし)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

八月踊り(はちがつおどり)

(2) 由来

奄美では、旧暦の8月が1年の折り目とされ、この間、「アラセツ(新節)」、「シバサシ(柴挿し)」、「ドンガ(嫩芽)」といろいろな行事が巡ってくる。これらの行事で踊られるのが「八月踊り」である。龍郷小校区では、主に「タネオロシ(種下ろし)」と呼ばれる行事(翌年の豊作を祈願するとともに、一年間の締めくくりとして各家庭を浄め、繁栄を祈るもの)の際に踊られている。

(3) 構成等

主に女性の叩くチヂン(太鼓)のリズムに乗って、男性の列と女性の列が1つの輪になり、歌を掛け合いながら踊る。その唄は、十数曲に及び、男女によって唄の節が違う。また、踊り方も曲によって違うが、総じてゆっくりとしたテンポから次第に速くなっていく。集落ごとに決まっている締めの曲を踊った後は、三味線やハト(指笛)も加わって、賑やかに六調を踊って終わりとなる。「種下ろし」では、新築の家や広場を巡って踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

運動会へ向けての練習時間を教育課程に位置付けている。低学年は、生活科の時間を中心に、中・高学年は、総合的な学習の時間を中心に計画し

ている。その際、係が区長さんと連絡を取り合い、詳しい日程を調整している。練習は、踊り（八月踊り・六調）や唄の合間に入れる掛け声を中心に行っている。毎年、多くの方が参加してくださるだけでなく、子どもたちに分かりやすく教えられるようにと集落で事前に打合せ会も開いている。また、「種下ろし」では、集落ごとに先輩から後輩へと伝承する形式で、踊りや唄の練習を行っている。こうした地域ぐるみの取組を通して、子どもたちは、地域行事に対する心構えや郷土を大切に思う心情を育んでいる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

龍郷小校区には、二つの集落があり、その集落によって唄や踊りが違う。しかし、「種下ろし」が行われる日が重なるために他の集落の八月踊りに接する機会が少ない。そこで、同じ龍郷小校区として、両方の集落の八月踊りを体験できるように発表を交互に計画している。また、十数曲ある全ての八月踊りを学習することは難しいので、低学年でも踊れそうな曲を地域の方と相談し、3曲選んでいる。練習の際は、自己紹介をするなどして地域の方とのふれ合いの時間も多く確保できるような時間配分にしている。発表本番の秋季大運動会では、子どもたちの発表に地域の方も参加していただき、チデン（太鼓）や三味線の演奏や、唄を歌っていただいたりしている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【八月踊りの練習】



【演奏する地域の方々】



【八月踊りの入場】



【最後を締める六調】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- ・ 今日暑い中、八月踊りをわかりやすく教えてください、ありがとうございました。わたしのおばあちゃんも来てくれてうれしかったです。これからも八月踊りという文化を私たちが受け継いでいきたいとします。運動会当日も学んだことを生かして、楽しく踊りたいと思います。

(4年生児童の日記より)

- ・ 奄美には多くの民俗行事が残っている。龍郷校区でも「八月踊り」の他に「種下ろし」や「浜下れ」といった伝統行事が集落ごとに受け継がれている。これらの行事を若い世代に伝えていくのが地域に住む者たちの役目である。その意味でも、小学校で八月踊りなどの伝統文化を教えることは大切であり、将来、集落の伝統を後世に受け継ぐ人材の育成に少しでもつながればと思う。(地域の方の感想)
- ・ 地域の方々の努力によって、伝統的な行事が脈々と受け継がれている。このような集落行事に参加する大人の姿を通して、子どもたちはその踊りをまねて踊ったり、島唄や三味線の音を身近に聞いたりする機会に恵まれている。しかし、地域でも三味線を弾ける人や島唄を歌える人も少なくなっている。さらに、若い保護者や校区外出身の保護者も多く、子どもたちへ伝統のよさを十分に伝えきれない環境になりつつあるのが現状である。そこで、学校でも郷土教育に力を入れ、地域の自然や史跡(人物も含めて)、伝統行事の学習を通して、郷土を愛し、伝統を大切にする心情や態度を育てている。それぞれの行事に、地域の方が講師となり子どもたちへ積極的に関わってくださっている。特に、八月踊りの学習では、自主的に練習会を何度も開くなど、子どもたちに正しく伝えたい、後継者を育てたいという思いが強く伝わってくる。子どもたちは、この熱い思いを肌で感じることで、郷土を大切にしたいという思いを強くもつのだと思う。(教員の感想)